

入学者のことば

入学者のことば

歯学科1年 森田小径



4月3日に入学式を迎えてから早3カ月が経ちました。毎日授業の課題やレポート、部活などに追われ、この3カ月は振り返ってみるとあっという間でありました。しかし、大変だからこそ自分のできることをしっかりとやろうと思えるものです。集中して取り組むことほど楽しいことは無く、毎日が充実していることを実感しています。入学してから新しい友達、先輩方、教授の先生方と出会い、様々な話を聞くことができます。そんな中でまだまだ成長しきれていない自分を感じることも多くあります。入学したばかりのころは、初めての一人暮らしで戸惑うこともあり、しっかりとした大学生としてやっていけるのか不安な気持ちもありました。そんな中で、自分の周りにいる人たちに協力していただきながら日々を過ごしていくうちに少しずつ大学生活にも慣れたのだと思います。それが今では楽しさに変化し、たくさんの発見をしたり、私にとって新しいことばかりと出会ったりする毎日に感謝するまでになりました。

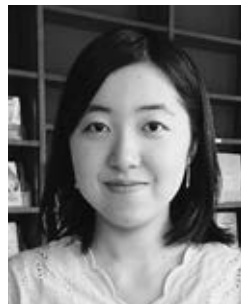
さて、普通の大学生活の中身についても簡単に話したいと思います。私たち1年生は現在一般教養科目を履修しています。専門科目とは異なり、歯学の勉強はあまりできていません。せっかく歯学部に入ったのと思う人もいないことは無いと思います。しかし、個人的には決して残念だとは思っていません。なぜなら教養科目が学べるのは、1年生の今だけだからです。教養科目を学ぶ意味をグループワークを通して考える、密度の高い授業もあり、多くの意見を聞くうちに私自身の

考える幅も広がっていると嬉しいです。

最後になりますが、歯学部は歯学科と口腔生命福祉学科の合わせて60人程ですごく人数の少ない学部だと思います。しかし、それが仲間同士の結束力を生むはずです。困ったときはお互いに助け合ったり、相談しやすい雰囲気が自然とできます。そのみならず、自分の意見を主張しやすい環境が整ってくると思います。少人数の強みとはここにあるのではないのでしょうか。拙いながらも、以上で入学者のことばとさせていただきます。

入学者のことば

歯学科1年 安藤まな



新潟大学歯学部に入塾して早3ヶ月。新たな環境での生活に不安もありましたが、それは杞憂でした。入学早々に懇親会や合宿があったため、すぐに友達ができました。今では楽しくおしゃべりをしたり、勉強を教えあったりしています。

1年次は五十嵐キャンパスで教養課程の勉強をします。高校までとは異なり、多様な形式の授業に大学生らしさを感じています。中でも私が毎週楽しみにしているのは、留学生との授業です。与えられたテーマについてグループごとに英語でディスカッションをします。たくさんの意見が飛び交うので新たな発見があり、とても充実した時間です。様々な国籍の方とお話できるのは貴重な機会だと思います。総合大学らしい五十嵐キャンパスでの生活を有意義に過ごしたいです。

また、週に1回、医歯学総合病院で早期臨床実習があります。各診療科での治療見学や新患者

さんの誘導、自らが患者役になる体験をしています。歯科を学ぶ前に医療現場の実態を肌で感じられたこの特別な経験を、今後の学習に役立てたいです。

課外活動としては、今まで音楽系の部活をしていましたが、新しいことに挑戦したいと思い、歯学部バスケットボール部に入部しました。良き先輩に恵まれ、基本から教えていただき、頑張っています。また、全学のESSにも入り、多様な志の先輩や友達と仲良く活動しています。私はスピーチコンテストで決勝に進んだので、優勝に向け、現在練習中です。

岡本太郎さんの『私は、人生の岐路に立った時、いつも困難なほうの道を選んできた。』は私の座右の銘です。すべてが自分の思い通りにならないかもしれないけれど、歯科医師という新たな目標と自分の決断に責任を持って突き進んでいきたいです。努力を惜しまず、幅広い知識を身につけ、その中から自分らしさを探していけたらいいなと思います。

最後に、たくさんの人に支えてもらって今の私があります。周りの人への感謝の気持ちを忘れず、勉学に勤しみ、6年間の大学生活を謳歌したいです。

入学者のことば

歯学科編入2年 北原由加里



歯学科に編入してから、早くも3ヶ月が経過しました。社会人経験を経て、再び「学生」という立場になり、久々の試験やレポートにドキドキ、ソワソワしながらも楽しく充実した日々

を過ごしています。

先日、英語の授業で「BUCKET LIST」といったテーマでディスカッションをしました。映画「最高の人生の見つけ方」でご存知の方もいると思いますが、アメリカでは「BUCKET LIST」という、死ぬまでにしたいことを書き留める習慣

があるそうです。いつかやりたいなぁと漠然と思いつかべていた夢、人生を左右するかもしれない大きなビジョン、自分の中に秘めている願望。少し大げさかもしれませんが、私にとっての歯学科編入はこの「BUCKET LIST」の一つでした。

編入学をする前は、大学で口腔保健学を学び、卒業後は歯科衛生士として都内の医学部附属病院に勤務していました。がん患者の口腔管理に興味を持ったことがきっかけで就職した医学部附属病院でしたが、他にも口唇口蓋裂など先天性疾患を有する患者や、移植を施行する患者、大学の授業では聞いたことがない疾患も多く、歯科衛生士として貴重な経験を積むことが出来たと感じています。編入学のきっかけは、疾患の理解の前提となる基礎を学びたいと思った事と、もっと患者さんに出来ることを増やしたい、歯科衛生士の役割を真に理解する歯科医師になりたい、という思いが次第に強くなっていったからです。

現在2年生で学んでいる生理学や生化学、解剖学、微生物学、発生学などといった基礎分野は、臨床で見てきた部分と繋がる内容があり、とても興味深いです。少し遠回りをしてきましたが、こういった気持ちで学べるのが嬉しく、非常に有難いと感じています。これまで、沢山の患者さんや医療人との出会いの中で、思わぬ出来事に感動したり、自分達の無力さを痛感したり、沢山の感情を共有してきました。きっと、この学生生活も自分にとって、そんなかけがえのない時間になるに違いありません。クラスメイトと沢山の楽しい思い出を作り、全員が自分にとっての「BUCKET LIST」を叶えることの出来るよう、後悔のない大学生活を送っていきたいです。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 阿部京華

新潟大学に入学し、早くも3か月が過ぎました。4月からはそれまでとはまるっきり違う生活になり、一人暮らしや学校に対して不安しかなかった日のことを遠い日のように感じています。初めての一人暮らしや、履修登録の仕方、授業の

課題など、高校のときとの違い一つ一つに戸惑いを覚え、余裕がなかった最初のころと比べると、ずいぶん大学生活にも慣れてきました。入学当初はほとんど知っている人がいませんでしたが、今では友達もたくさんでき、毎日楽しく充実した日々を送っています。

入学してすぐ行われた合宿研修では、グループディスカッションを通して歯学科も口腔生命福祉学科も関係なく親睦を深めることができました。それまで仲のいい友達ができるか心配でしたが、新しくできた友達と食事をとったり、部屋で遅くまでおしゃべりしたり、とても楽しい2日間を過ごしました。この合宿を通して仲良くなった友達と4年間付き合っていくうえで、互いに助け合いながらいい関係を築いていきたいと思います。

合宿が終わるとすぐに授業が始まり、金曜日の早期臨床実習も始まりました。まだ何の知識もなく、歯科医療人になる実感も湧いていませんでしたが、ユニフォームを着て実習に臨むたびに少しずつ意識が高まったように思います。初めてユニフォームをきて病院に出たときは、目に映るものすべてがとても新鮮で歯科衛生士に一步近づけたうれしさでいっぱいだったのを覚えています。理想の歯科衛生士になれるよう、この時の初心を忘れずに頑張りたいです。また、病院を見学させていただく中で、コミュニケーション力が大切であることを学びました。1年生は時間がたくさんあると聞いたので今のうちにいろんなことに挑戦して、多くの人と話してみたいと思います。そして培った経験を将来につなげていきたいです。

新潟大学に入学して3か月でまだまだ始まったばかりの大学生活、これから苦しいことやつらいこともあるとは思いますが、4年間悔いのないよう頑張りたいと思います。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 渡部 彩花

新潟大学に入学してから、早いことに3か月がたちました。合格した時の嬉しさを胸に、地元を離れ生活する不安や大学生活への期待など、さま

ざまな思いを抱えて入学式に出席したことを今でも鮮明に覚えています。そして、歯科衛生士・社会福祉士になるという将来の目標へ向かって仲間と努力し、充実した毎日を送っています。

4月から始まった早期臨床実習では、私にとって多くのことを学ぶ機会になりました。病棟へ出るうえでの身だしなみや時間を守ること、コミュニケーションを取ることの大切さなど、すべて当たり前ではありますが改めてその大切さを認識することができました。もちろん患者さんとコミュニケーションを取るのは容易ではありませんが、さまざまな人と会話をする楽しさを学ぶことができました。同時に、実際に病院へ出て患者さんと接することで、将来自分が医療現場で働くのだと実感が湧きました。この先実習をしていく上で、つらいと感じることも多々あると思いますが、仲間と協力し、どんな問題にも立ち向かっていきたいです。

また、部活動では歯学部卓球部に所属しました。初心者なので技術的にはまだまだ未熟ですが、先輩やOBの先生方に教えてもらい日々楽しく練習に取り組んでいます。歯学部卓球部という名前ですが、歯学部だけでなく、医学部の方、他の県の歯学部の方とも触れ合う機会があるため、交流の幅を広げることが出来ます。多くの方と接することで、たくさんの知識を得ることも出来ます。なので、部活動での集まり一つ一つが私にとって貴重な機会です。

大学生になり今まで挑戦したことのない活動に多く取り組んでいます。卓球部や口腔生命福祉学科の幹事、一人暮らしなどです。どの活動も初めてになるので、失敗することや苦戦することがあ



と思います。しかし、それらを自分自身の成長へとつなげ、すべての活動を価値あるものにしたいです。

入学者のことば

口腔生命福祉学科編入3年 徳竹 妙香

私は、この3月に短期大学を卒業し、歯科衛生士免許を取得後、さらにステップアップを考え、新潟大学口腔生命福祉学科に編入しました。

私が編入を考えたきっかけは、短期大学での臨床実習で特別養護施設などに伺い、高齢者の方々やさまざまな障害をもった方々と接した際に歯科衛生士としての技術を身に付けるだけでは患者さんの気持ちに寄り添った口腔ケアを行うことが出来ないと感じました。そこで、歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを取得することで、患者さんによりよいサポートができるのではないかと考え、入学を決めました。

いざ入学が決まってみるとクラスになじめるだろうか、勉強についていけるだろうかなどの不安がありました。しかし、クラスの仲間は和気藹々としていて活気のあるクラスで、分からないことがあると声をかけてくれたり、助けてもらったりしながら日々充実した生活を送ることができています。講義は学生自ら問題を見つけ、グループディスカッションを行い、問題解決をするPBL形式が多くあります。PBLは学生主体で最初から最後まで学生たち自身で解決していくという授業スタイルなので、初めは戸惑いもありましたが、グループのみんなに教えてもらいながら課題に取り組んでいます。今後、社会に出た際にこの授業経験を生かせるように毎回の課題に一生懸命取り組み、自分の力を伸ばしていきたいと思っています。また、私は専門科目以外にも週2回五十嵐キャンパスで講義を受けています。旭町キャンパスとはまた違った、これぞキャンパスライフという環境で勉強ができ、他の学部の方々と関わることができるのも楽しみの一つになっています。

この3か月間で、自分が積極的に行動すればいくらかでも道は開けてくる恵まれた環境であるとい

うことを、様々な先生方のお話を通して実感しています。2年間という短い学生生活ですが、充実した生活を送るために勉学に励んで行きたいと思っています。

入学者のことば

口腔生命科学専攻博士課程1年 笠原 映

今年の4月より顎顔面口腔外科学分野の大学院に入学しました笠原映と申します。私は新潟市の出身で、中学、高校、大学、研修医ともう10年以上も同じような川沿いの通学路を使っています。今回入学以来初めて執筆の機会をいただきました。大学院入学にあたり考えていたことなど、拙い文章ですが書いてみたいと思います。

研修医時代は、4月～9月は県庁近くの新潟中央病院、10月からは顎顔面口腔外科学分野で学びました。研修後は県外で働いている自分の姿を思い描いていましたが、研修を通し自分の知識・技術不足を痛感し、何が正しいのか判断できないような状態で外に出ることに不安を感じるようになってきました。また、口腔外科の色々なことを教えていただくにつれ、研修医の時の単なる経験や体験で終わらすのではなく、ご指導くださった先生方に近づけるようにもっと勉強したいと思うようになり顎外科の大学院進学を決めました。

執筆している今、大学院に進学し3か月が過ぎようとしています。この間、学会発表を初めて経験しました。準備も発表も手取り足取りご指導いただき私はとても勉強になりましたが、きっとご指導くださった先生方は発表が終わり私以上に



ホッとされたのではないかと思います。お忙しい中日々熱心にご指導くださる先生方には心より感謝しております。また、口腔外科の大学院生は4か月の麻酔科研修があり、私は今まさに麻酔科研修中です。他科の先生にも熱心にご指導をいただける機会も本当にありがたいと思います。さらに、相談しあえる同期がいるのもとても心強く、彼らの頑張っている姿を見るとモチベーションが上がります。

今はできないことばかりですが、目標としたい先生がすぐ近くにたくさんいらっしゃる、自分のやる気次第で多くのことを勉強できる恵まれた環境にいることに感謝しながら卒業する時に大学院に進んでよかったと思えるよう毎日を過ごしたいと思います。

入学者のことば

口腔生命科学専攻博士課程1年
堀 頌 子

今年包括歯科補綴学分野大学院に入学した堀頌子です。

今回“入学者のことば”というテーマで原稿依頼を頂いたのに当たり、大学院進学を決意した理由と、現在の生活についてお話したいと思います。私が義歯に関して興味を持った最大の源は、元々自分が“食”に執着が強いという所にあると思います。

昔から食べるのが大好きで、大学に入り義歯に関して初めて学んだ時の印象は、例えば極端に言えば無歯顎の人にしっかりした総義歯を装着したら、ご飯を食べれなかったのに美味しく食べれるようになる、それってなんて凄いな、という単純な感銘でした。そして食べれるようになる手伝いを出来る補綴に自分が携われたら嬉しいな、というのが始まりでした。

その後講義、基礎・臨床実習を通し義歯に関して理解を深めていくうちに、常に新たな疑問点が浮かび、その奥深さにもっと知りたい。学びたい。と考えるようになりました。

そんな私ですが、院進学を決意したのは願書提

出締め切りの真近でした。

流されやすい私は、4年間という長い未来を見据え、かつ周りがこぞって開業医の見学に勤しむ中、本当にこの道でいいのか、と明確な理由なく漠然と不安を感じるようになったのです。しかし悩みぬいた結果、行かないで後悔するのが一番嫌だ、なら、とりあえず行ってみよう！という考えに至りました。

入学した今となっては、日々学ぶことの多さ・また素晴らしい先生・先輩の下で専門的に学べる環境に大変感謝しています。

毎日の生活に関しては、英語・統計の授業、診療、学生の基礎実習の手伝いなどに参加させて頂いています。

診療については日々色々な症例に出会い、指導医の先生その他沢山の先生方・先輩方に様々なことを教えて頂き、新たに吸収できることの多さを嬉しく思います。

基礎実習に関してはお手伝いをさせて頂く、という形で参加させてもらうことで自分の理解していなかった部分を再度確認できたり、臨床に向けて土台を固める・技工操作の見直しを出来る、という点から逆に私自身の方が色々と学ばせて頂いています。

研究に関しては、私は具体的な内容についてはまだ決定していないためこれから本腰を入れていきたいと思っています。

まだ入局して3か月ではありますが、考えようによってはもう3か月、と捉えることもできます。せっかく悩み抜いて選んだ環境、4年間経っ



た後に学生の頃より何周りも大きくなった自分で胸を張って修了できるように、これから一生懸命頑張りがながらも自分のペースで着実に成長していければと思います。

入学者の言葉

口腔生命福祉学専攻博士前期課程 1年 沖津佳子

この度、口腔生命福祉学専攻博士前期課程に入学した沖津佳子です。社会人大学院生として大学院に通いながら新潟大学医歯学総合病院で歯科衛生士として勤務しています。

大学を卒業してあっという間に3か月ほど経ちました。大学時代の友人とは少し前までは毎日顔を合わせていたのに今では県外に行った友人も多く、なかなか会うことができなくて寂しい気持ちでいっぱいです。しかし会った時にはお互い仕事の話をして励ましあっています。そんな中で大学時代4年間一緒に勉強してきた友人によく言われることは私が大学院に進学するなんて意外だということです。私自身もまさか自分が大学院に行くとは予想していませんでした。

大学時代の私は周術期口腔ケアについて学びたいと考えていたので病院勤務を希望していました。また、その当時は大学院へ進学して研究をしようという考えはありませんでした。このような私の考えを変えてくれたのは大学院の先輩方でした。大学4年時に先輩方のお話を聞く機会があっ

たのですが、この時に社会人大学院生として仕事と勉強の両立をしているというお話を聞いて私の中で選択肢の幅が広がりました。病院で臨床経験を積みながら研究を行うことができるのは自分の糧になるのではないかと感じるようになりました。

まだ入学して3か月ということもあり本格的に研究を行っているわけではありませんが、講義の中で論文を読む機会が増え、それぞれの分野の先生方からのお話を聞いて仕事につながる部分も多いです。

歯科衛生士としてまだまだ未熟な私は歯科衛生士の先輩や先生方から多くのことを教えていただき、学びと反省の日々を過ごしています。このような中で大学院の勉強、研究を並行していくのは時に大変なことがあると思います。しかし将来の自分が大学院に進学してよかったと思うことができるように努力していきたいと思いますのでこれからよろしく願いいたします。

